

Nihonbashi Opera Tokyo 2021

Opera
Madame Sadayacco

150th birth and 75th after death anniversary



by Picasso

“LA TRAVIATA”
Giuseppe Verdi

Friday, December 10, 2021 Nihonbashi Theater Tokyo

日本橋オペラ 2021



歌劇 **貞奴姫**

川上貞奴 生誕 150 年・没後 75 年記念



貞奴物語

ヴェルディ作曲
歌劇「椿姫」名場面

2021年 12月 10日 (金) 日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会会長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ 2021 歌劇「貞奴姫」にご来場頂きありがとうございます。

今年は、地元日本橋出身で日本初の女優である川上貞奴の生誕 150 年、没後 75 年の記念の年です。おそらくタイトルの歌劇「貞奴姫」に驚かれたと思いますが、本日の公演はヨネスケ師匠にご案内役をお願いして、貞奴の人生を振り返りながら、ヴェルディ作曲の歌劇「椿姫」の名場面と融合します。舞台設定は史実に基づいています。第 1 幕 1885 年鹿鳴館の夜会では、翌月に初代総理大臣になる伊藤博文や、今年 5 月に日本橋オペラで初演した、歌劇「お菊さん」の原作者ピエール・ロティも出席していました。また当会の研究で、当時小奴であった若干 14 歳の貞奴も接待していた可能性が高いことが判りました。ロティの著した「江戸の舞踏会」には『せいぜい 15 歳位の令嬢が心から喜んで飛び跳ねていたが、高雅な雰囲気があり魅力的だった』と記されています。これこそ貞奴だと思います。このプログラムの表紙に、あまり知られていない、その当時の貞奴の写真を掲載しています。第 2 幕は貞奴の初恋の人岩崎桃介が、福沢諭吉の養子に入り別れた事実を「椿姫」の舞台に置き換えます。第 3 幕では、貞奴の人生のハイライトでもある 1900 年パリ万博の夜会を再現します。第 4 幕 1908 年帝国女優養成所の開所式では、NHK 大河ドラマ「晴天を衝け」で活躍している渋沢栄一が発起人代表としてご挨拶をしました。渋沢栄一といえば新一万円札の顔に選ばれ、時の人ですが、実は貞奴も新札の候補に挙がったそうです。結果的には学者である津田梅子が選ばれましたが、おそらく貞奴が芸者上がりで、伊藤博文の愛人だったことで不採用となったと想像します。しかし当時の普通の女性が男性と対等に生きる方法は、芸者以外にはなかったのです。貞奴のジャポニズムの具現者としての世界的評価、あるいは世界の女性解放運動に与えた影響を考えると、貞奴を正當に評価できない日本のジェンダー平等は道半ばと感じます。なお本日の公演では、日本語字幕をあえて使いません。つまり、目では史実に基づく歴史上の人物が演じる舞台を、耳では正真正銘のイタリアオペラの名作歌劇をお楽しみ頂くという、一種の錯覚を狙っています。なお 2022 年 5 月 22 日(日)に本日と同じ舞台で、歌劇「椿姫」全曲を上演する予定です。地元出身の偉大な女性の記念すべき年を、こうして皆様とお祝いできることは嬉しいことです。

なお本公演は文化庁 ARTS for the future！（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）として開催します。お楽しみいただけましたら幸いです。

表紙：ピカソ作「サダヤッコ」（1900年）、写真：14歳の貞奴(1885年)

桂 米助／ヨネスケ (Yonesuke Katsura)／ご案内役



千葉県市原市出身。高校卒業後、桂 米丸氏に弟子入り。落語家として活躍する一方、ロケを得意とし、日本テレビ「突撃！隣の晩ごはん」では、これまで 5000 軒以上のお宅を突撃し、リアルな家庭事情を伝えてきました。また日本全国の駅弁・空弁を食べ、その数は 1000 個以上。「ヨネスケの駅弁空弁 600 選」として本も出版しています。落語会や講演会・トークショーなど、現在も全国各地に笑いを届けています。また昨年 72 歳にして YouTube を開設。若手落語家の応援、そして落語界の発展のため多くの落語家や落語文化について紹介しています。

佐々木 修 (Osamu Sasaki)／指揮・構成



青森県弘前市出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダクケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979 年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982 年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」（オペラ・コンツェルト誌）と好評を受け、国際モーツァルトウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984 年ベルリン・ドイツ響を指揮してベルリンフィルハーモニーホールでドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。また NHK-FM シンフォニーコンサートのパーソナリティー、タモリの音楽は世界だ！等の音楽番組制作、映像・CD・WEB 制作、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、AI 特許など、マルチなタレントで活躍。さらに新型コロナウイルスで大規模なオーケストラでの上演が困難となった世界のオペラハウスで、佐々木が日本橋オペラのために編曲、国際楽譜図書館プロジェクト(ペトルッチ)に提供している小編成のオーケストラ譜を使って、トリスタンとイゾルデ(ハノーヴァー、ケンブリッジ)、椿姫(ニューヨーク)、蝶々夫人(ローマ)などが上演され絶賛されている。日本橋オペラ常任指揮者。

中橋健太郎左衛門 (Kentarozaemon Nakahashi)／ピアノ



桐朋学園大学音楽学部卒業。新国立劇場において 2011 年までプロンプター、副指揮など音楽スタッフとして契約。指揮者としてこれまで各地で、「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「秘密の結婚」「ランメルモールのルチア」「リータ」「椿姫」「リゴレット」「ファルスタッフ」「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「ジャンニ・スキッキ」「トゥーランドット」「カルメン」「皇帝と船大工(日本初演)」「タンホイザー」「ローエングリン」「ヘンゼルとグレーテル」「ナクソス島のアリアドネ」「アラベッラ」などオペラ全幕を指揮。2014 年 10 月、R. シュトラウス「アラベッラ」全曲舞台上演にて、神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指揮。2020 年 11 月、栃木県足利市のプロフェッショナルオーケストラ「足利カンマーオーケスター」第 16 回定期演奏会に招聘され指揮。藤原歌劇団の公演に於いては、下記のように指揮者として継続的に起用されている。2018 年、2019 年、2021 年、メノッティ作曲「助けて！助けて！宇宙人がやって来る」(演出 岩田達示)2021 年 11 月「ヘンゼルとグレーテル」ピアノ奏者としても、びわ湖ホール主催マスタークラスから招聘されるなど活動。公益財団法人日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師。



福田祥子 (Shoko Fukuda) ソプラノ／貞奴姫・ヴィオレッタ役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。第6回大阪国際音楽コンクール第2位。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテロ、イル・トロヴァトーレ、オネーギン、パリアッチ等に主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』(音楽現代)と批評を受ける。ウィーンとバイエルンの国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)、コシチェ国立歌劇場(スロバキア)などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。本年5月には、日本橋オペラ研究会会長として自らタイトルロールと演出を担当、長崎が舞台のフランスオペラ「お菊さん」の日本初演、世界でも92年ぶりの蘇演を成功に導き、音楽の友などの専門誌から絶賛された。東京二期会、関西二期会各会員。



小野弘晴 (Hiroharu Ono) テノール／岩崎(福沢)桃介・アルフレード役

東京芸術大学声楽科卒業。松本美和子、中島基晴、(故)平野忠彦、勝部太の諸氏に師事。BBC オペラソサイエティーオーディション金賞受賞。東京芸術劇場「椿姫」(ジェルモン役)でオペラデビュー。その後多くのバリトン役を歌う。09年鎌倉芸術館「椿姫」アルフレード役を歌いテノール転向。第44回イタリア声楽コンクールソファイナリスト。親好サニーオペラ新人賞、及びテノール大賞受賞。第23回太陽カンツォーネコンクール第1位受賞。伊ローマ・サンロレンツォ・ムジカマスタークラス修了。藤原歌劇団には2018年渋谷BUNKAMURAオーチャードホール「ルチア」(東京フィルハーモニー)でデビュー。藤原歌劇団正団員。桐朋学園大学芸術短期大学講師。全日本Jr.クラシック音楽コンクール全国大会審査員。東京国際声楽コンクール審査員。グールドゥメロンジュ、横浜カルドオラトリオ、成城カンツォーネ倶楽部指揮者。オフィシャルサイト <https://hiroharuono.wixsite.com/home/>



香月 健 (Takeshi Katsuki) バリトン／福沢諭吉・ジェルモン役

東京都出身。桐朋学園大学音楽学部演奏学科声楽専攻。同大学研究科修了。2003年よりイタリアに渡り、フランチェスコ・エッレロ＝ダルテーニャ氏のもとで、後にフロジノーネのリチーニオ・レフィチェ音楽院においてシルヴィア・ラナッリ氏のもとで研鑽を積む。「フィガロの結婚」伯爵、「ドン・ジョヴァンニ」マゼット、「コジ・ファン・トゥッテ」グリェルモ、「魔笛」弁者、「愛の妙薬」ベルコーレ、「シモン・ボッカネグラ」パオロ、「ドン・カルロ」ロドリゴ、「ジャンニ・スキッキ」ジャンニ、「ヘンゼルとグレーテル」ペーター、「電話」ベン他に出演。法人作品にも、松井和彦「泣いた赤鬼」青鬼、木下牧子「不思議の国のアリス」笑い猫、池辺晋一郎「てかがみ」杉本などに出演。近年は東京二期会公演「ジャンニ・スキッキ」「蝶々夫人」「椿姫」に出演。ベートーヴェン「交響曲第9番」、ヘンデル「メサイア」他宗教曲等のソリストも務める。二期会会員。



持田温子 (Atsuko Mochida) メゾソプラノ／

帝国女優養成所第1期生河村菊枝・アンニーナ役

日本大学芸術学部音楽学科卒業。同大学院を首席で修了。二期会研修所マスタークラス修了。ポーランドを始めヨーロッパ各地で研鑽を積み、メゾソプラノへ転向。歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ役にてメゾソプラノデビュー。第22回日本演奏家コンクール第1位及び毎日新聞社賞・神奈川県知事賞を受賞。選抜オーケストラ共演者に選ばれ、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。第20回長江杯国際音楽コンクールにて声楽部門第1位及び中国駐大阪総領事賞(最高位)を受賞。第11回東京国際声楽コンクール第2位。これまでに「魔笛」侍女III役、「フィガロの結婚」ケルビーノ役、「霊媒」ノーラン夫人役などで出演。二期会会員。



森井美貴 (Miki Morii) ソプラノ／陸奥宗光夫人亮子・フローラ役

大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。第34回飯塚新人音楽コンクール第一位・文部科学大臣賞・海外研修費を授与しイタリアミラノに短期留学、研鑽を積む。第47回なにわ芸術祭新人賞・大阪府知事賞・大阪市長賞、第17回KOBE国際音楽コンクール最優秀賞・兵庫県知事賞、第13回大阪国際音楽コンクール第三位、第28回宝塚ベガ音楽コンクール宝塚演奏家連盟賞、第26回摂津音楽祭リトルカメラリアコンクール奨励賞等、多数受賞。大学在学中に佐川吉男音楽奨励賞を受賞した「椿姫」でオペラデビュー後、「魔笛」「道化師」「友人フリッツ」「メリーウィドウ」「ヘンゼルとグレーテル」等、オペラを中心に活動を広げる。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。関西二期会準会員。



飯沼友規 (Tomoki Iinuma) テノール／渋沢栄一子爵・ガストーネ役

千葉市出身。日本大学芸術学部音楽学科声楽専攻を首席で卒業。同大学院芸術学研究科音楽芸術専攻博士前期課程を修了。学部卒業時に芸術学部長賞を受賞。読売新人演奏会に出演。これまでに「椿姫」(アルフレード)、「外套」(ルイージ)、「ナブッコ」(イズマエーレ)、「愛の妙薬」(ネモリーノ)、「こうもり」(アイゼンシュタイン)など主要キャストとして多数出演。大学卒業後、イタリア留学で研鑽を積み、近年では自身が演奏活動をする傍ら、様々な形の演奏会の企画、構成、演出も行っている。また、イタリアで得た技術をもとに合唱団や個人の指導にも精力的に取り組んでいる。声楽をLina Vasta、中島基晴、丹羽勝海の諸氏に師事。



飯塚学 (Manabu Iitsuka) テノール／鍋島直大侯爵・ドビニー役

藤原歌劇団団員。東京音楽大学、同大学院オペラ研究領域修了。2009～2016年イタリアローマへ留学。イタリアにて「ラ・ボエーム」マルチェッロ役でデビュー。日本演奏家コンクール第3位、東京国際声楽コンクール奨励賞を受賞。イタリア声楽コンクール・シエナ部門入選。ルーマニアコンスタンツァ国立歌劇場オペラ「イル・トロヴァトーレ」ルーナ伯爵、「仮面舞踏会」レナート。神奈川県民ホールオペラ宮本亜門演出「魔笛」ババゲーノのアンダースタディでハイライトコンサートなどに出演。他「ランメルモールのルチア」エンリーコ、「ファヴォリータ」アルフォンソなどに出演。声楽を小川雄二、高橋啓三、堀内康雄、S・カッローリ、L・セッラ、P・マッローク、A・ガザーレの各氏に師事。



奥村泰憲 (Yasunori Okumura) バリトン／伊藤博文侯爵・ドゥフォール役
エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業、同大学院修了後、セルビアとルーマニアに短期留学。2005年よりウィーン国立音楽大学声楽科、プライナー音楽院指揮科・オペラ科で研鑽を積む。2006年ウィーンでシュッツ「マタイ受難曲」イエスでソリストデビュー、また同地でグルック「トリードのイフェジェニー」トアス王を歌いオペラデビュー。フランス、デンマーク、マケドニア、オーストリア、ドイツで独唱会。「天地創造」「第九」「カルミナブラーナ」などソリストを多数務めオペラでは「魔笛」「ラ・ボエーム」「カルメン」「道化師」など45の役を演ずる。シェーンベルク合唱団、BCJの公演や録音に参加。現在10団体の指導を務める。



矢田部一弘 (Kazuhiro Yatabe) バリトン／皇室侍医・グランヴィル医師役
国立音楽大学声楽学科卒業、同大学院オペラ科修了。G. ラウリ・ヴォルピ他の国際コンクールに入賞。ヨーロッパ各地でオペラ、コンサートに出演。近年はヴェルディの声と評され、当たり役の「ナブッコ」ザッカリーア、「リゴレット」スパラフチーレ、「レクイエム」他、多くのヴェルディ作品に出演。ロッシーニ作曲「セヴィリアの理髪師」、モーツァルト作曲「魔笛」、トマ作曲「ハムレット」等、レパートリーは幅広い。国内外で高評を得た「ラ・ボエーム」コッリーネ、「トゥーランドット」ティムール等、プッチーニ作品にも定評がある。五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。国立音楽大学講師。CD「Preghiera-- 祈り --」好評発売中。



町村 彰 (Akira Machimura) テノール／川上音二郎役・合唱
東京大学大学院修士課程修了。現在「聖グレゴリオの家」の教会音楽科在籍中。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. プファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にJ.S. バッハ『マタイ受難曲』福音史家、W.A. モーツァルト『コジファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール/バスソリストなどを演奏。2021年度M-1グランプリ一回戦出場(敗退)。



吉田 覚 (Satoru Yoshida) テノール／ピエール・ロティ役・合唱
洗足学園音楽大学ファゴット専攻卒業。その後声楽に転向。洗足学園音楽大学大学院声楽専攻修了。オペラでは「こうもり」アルフレード役、「トゥーランドット」ポン役などで出演。英国STAT公認 アレクサンダー・テクニーク教師。アンドーヴァー・エデュケーターズ®日本公認指導者



櫻井 航 (Wataru Sakurai) バリトン／岩倉具視公爵役・合唱
東京音楽大学声楽科卒業。同大学院オペラ研究領域修了。主な出演に『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『魔笛』弁者、武士2、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、アルチンドーロ、『トスカ』アンジェロロッティ『トゥーランドット』ピン、マンダリーノ、『こうもり』フランク、ファルケ等。他にも『こうもり』フロッシュ『メリーウィドウ』ニューグシュなどオペレッタの台詞役、コンサートMC、YouTubeチャンネル『オペラマガジン♪』など、幅広く活躍をしている。二期会準会員。



高橋千夏 (Chinatsu Takahashi) ソプラノ／渋沢栄一夫人兼子役・合唱
昭和音楽大学卒業。第1回日本歌曲コンクール奨励賞受賞。W. マッテウツィ、M. デヴィーア、D. マツォーラ各氏によるマスタークラスを受講。第82回読売新人演奏会に出演。『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『カルメン』フラスキータ役、『フィガロの結婚』サンナ役、『お菊さん』(日本初演)お雪役などに出演、音楽の友、モーストリー・クラシックなどの好評を得る。



小宅慶子 (Keiko Oyake) ソプラノ／福沢諭吉次女～桃介夫人房役・合唱
東京音楽大学声楽専攻声楽演奏家コースを卒業。これまでに声楽を伊藤和子、片岡敬、水野貴子、小森輝彦、武田正雄、松井理恵の各氏に師事。新宿区民オペラ『トゥーランドット』に侍女役で出演。日本橋オペラには『お菊さん』桔梗役で出演。北区文化財団アーティストバンクにグループ《Magokolo》として登録。現在サントリーホールオペラアカデミー第6期生。



渡谷真衣 (Mai Watariya) メゾソプラノ／岩倉具視令嬢～戸田極子役・合唱
国立音楽大学声楽専修卒業。これまでに「フィガロの結婚」ケルビーノ役、「サンドリヨン (日本語公演)」精霊役、「白鷺幻想」雪の精役、「白雪姫」ゴンゾ役にそれぞれ出演。前年12月には地元である栃木県の記念オペラ「小山物語」で八島役を演じる等、幅広い作品に出演している。声楽を井坂恵氏に師事。二期会準会員。東京室内歌劇場会員。



窪 瑤子 (Yoko Kubo) メゾソプラノ／伊藤博文夫人梅子役・合唱
日本大学芸術学部音楽学科卒業。東京音楽大学大学院オペラ研究領域修了。第57期二期会オペラ研修所修了。在学時よりスペイン音楽を研究し、2011年スペイン音楽国際講習会にスペイン政府の奨学金を得て参加。第48回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。劇団東俳、ラファール声楽講師。



石井揚子 (Yoko Ishii) メゾソプラノ／鍋島直大夫人榮子役・合唱
法政大学法学部卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。永田孝志、村田健司、関定子の各氏に師事。第13回ルーマニア国際音楽コンクール入選。コンセール・ヴィヴァン新人オーディション合格。これまでに「子供と呪文」子供役、「花ことば」叔母役/老嬢3役、「ジャンニ・スキッキ」ネッラ役等に出演。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員、東京リラの会会員。



布目紗綾 (Saya Nunome) バレエ／川上貞奴役
クラシックバレエダンサー。様々な公演で活躍する他、独自創作活動「バレエジャンパー®」をSNS上で展開し多くのマスコミ媒体に掲載される。「バレエにゃんぱー®」キャラクターの作者。【受賞歴】ヨコハマコンペティション クラシックシニア部門 第3位、埼玉全国舞踊コンクールクラシック1部舞踊協会奨励賞、中野国際ダンスコンペティション創作部門入賞1位ヴィジュアルプライズ受賞



細野 生 (Ikuru Hosono) バレエ／川上音二郎役
6歳よりバレエを始め12歳でSasaki Mika Ballet Academyに入所、佐々木三夏、池端幹雄に師事する。18歳より牧阿佐美バレエ団に入団し全ての公演に参加する。正確な足捌きとコミカルな演技に定評がある。出演作品「～La Fille mal gardee～ リーズの結婚」よりアラン「白鳥の湖」よりパ・ド・カトル、ナポリターナ「ライモンダ」よりパ・ド・カトル

歌劇「貞奴姫」あらすじ

第1幕

1885年(明治18年)
11月3日鹿鳴館、明治天皇の誕生日を祝う天長節の祝賀会。伊藤博文や岩倉具視などの日本の中枢の政治家に加え、各国の外交官も招待されている。横浜に寄港中のフランス海軍士官で作家のピエール・ロティの姿も見える。ダンスの相手として、新橋や人形町の芸者が令嬢に扮している。その中でも一番若く、とびっきり輝いているのが貞奴だ。大勢の客が貞奴を取り巻いている。渋沢栄一子爵が、慶應の学生の岩崎桃介を貞奴に紹介する。桃介はまだ遊びというものを知らない、純情そのものの青年である。以前から彼女を慕っていた桃介は、知り合った喜びを有名な「乾杯の歌」に託してうたう。貞奴は客をダンスに誘い、ここから「ワルツと二重唱」になる。彼女は次の間に行きかけて、ちょっとよろめいて倒れそうになる。かなり重症の結核に罹っているのである。桃介は1人部屋に残って、彼女の介抱をする。ここで彼は愛の告白をして、1日も早くふしだらな生活から、足を洗うよう忠告する。彼女は突然のことに驚くが、彼の態度が真摯で誠実なのに、強く心を動かされる。桃介が帰ろうとすると、彼女は椿の花を一輪渡して、この花がしぼんだ頃に再会しましょうと、翌日に会う約束をする。宴も終わり、客たちも帰って行くと、部屋には貞奴ただ1人だけ取り残される。そしていよいよ貞奴のシェーナとアリア「ああ、そは彼の人か～花より花へ」が始まる。まず本当の愛を知った喜びがうたわれ、将来の自分の幸せを思っとうっとりとするが、突然気を取り直して、たとえ人に愛されても、いずれは捨てられてしまう身の上、だからいっそのこと自由に享楽に耽ろうと、華やかなカバレッタ風のアリアになる。邸の外からは、桃介のうたう声が聞こえ、すると貞奴の心は再び千々に乱れる。



第2幕

貞奴と桃介の愛の巢。貞奴に夢中の桃介は、愛の生活の喜びをアリア「燃える心を」に託してうたう。ところが現実の生活は厳しく、金策のために出かけて行く。1人残った貞奴のところへ、福澤諭吉が訪ねて来る。彼は最初高圧的に、貞奴が真面目な桃介を誘惑しているとなじる。しかし彼女が自分の財産まで投げ出して、彼に献身的に尽くしているのを知って心を改める。諭吉は貞奴に、桃介を次女の房の養子に迎えるために別れてくれと懇願する。桃介の将来のために、泣く泣くそれを承知した貞奴は、1人の女が自分の幸せを犠牲にしたと伝えてくださいという。最後は諭吉が彼女を慰め励まし帰って行く。貞奴が手紙を書いているところに桃介が戻り、諭吉の来訪を知らせる。貞奴は桃介への愛を絶唱して退場する。桃介が、貞奴が置いて行った手紙の封を切ると、それは離縁状である。彼は驚き、そして怒る。そこへ諭吉が戻って来て、怒り悲しむ桃介を慰める。有名なアリア「プロヴァンスの海と陸」。だが桃介はそれに耳を貸さず、復讐してやると叫んで出て行く。

第3幕

1900年パリのロイ・フラーのサロン。貞奴と夫の川上音二郎はパリ万博に出演した。ロイ・フラーは当代一のモダン・ダンサーで、いち早く貞奴の才能を認め、全ヨーロッパの川上一座の興行主であった。サロンでは大勢の紳士淑女が興じている。貞奴と音二郎はジブシーと闘牛士の歌に合わせて、即興で踊り大喝采を受ける。サロンには貞奴と別れ福澤家の養子となり大成功した桃介も招待されカードに興じている。そこへ貞奴がドゥフォール男爵と登場する。桃介は男爵とカードで対決するが、この日は桃介の一人勝ちだ。気が大きくなった桃介は貞奴に、本当に心変わりしたのかと詰問する。彼女は諭吉との約束で、仕方なくそうだと答える。すると彼は大勢の客の面前で、彼女の不実を罵り、彼女にカードで勝った金を叩きつける。貞奴はショックで気を失う。人々は彼の無礼を咎める。そこに父親の福澤諭吉が現れ、息子を叱りつける。後悔する桃介、それでも彼を思い続ける貞奴と、思い思いの心を打ち明ける大コンチェルタートで幕が下りる。



川上音二郎&貞奴

第4幕

1908年9月15日帝国女優養成所の開所式。貞奴が所長となり、日本で初めての女優養成所が設立された。式典では渋沢栄一が発起人代表として、女性と芸術家の社会的地位向上を願い祝辞を述べた。貞奴は自身初の海外旅行先のアメリカで受けた印象を語る。つづいて貞奴は模範演技として、来賓や研究生の前で「椿姫」の終幕を演じる。

謝肉祭の朝、薄暗い貞奴の寝室。彼女の結核は悪化して、持ち物も売り尽くして死を待つ身になっていた。起き上がろうとするが、よろよろとして起き上がれない。容色もすっかり衰えて、かつての面影もない。彼女は1通の手紙を取り出して、それを読み始める。福澤諭吉からのもので、約束を守ってくれた礼と、桃介に真実を話したことが記されているが、彼女は読み終わって、もう遅いわとつぶやく。そして鏡の中の自分をみながら、有名なアリア「さようなら、過ぎ去った日よ」をうたう。窓の外からは、謝肉祭の賑やかな合唱が聞こえて来る。すると女優養成所一期生の河村菊枝が駆け込んで来て、桃介が帰って来たことを告げ、続いて桃介が飛び込んで来て、2人はしっかりと抱き合う。彼は自分の非礼と身勝手な態度を詫言、彼女も生きて彼に会えたことを喜ぶ。そしてこれも有名な二重唱「パリを離れて」がうたわれる。2人は喜びのお礼に、教会へ行こうと、貞奴は着替えをしようとするが、力が尽きてその場に倒れ込む。菊枝が急いで医者呼びに走る。そのとき福澤諭吉と医者が、慌しく入って来る。諭吉は自分の行ないが、こうした悲劇を招いたのだと、深く後悔して貞奴を初めて娘と呼び許しを乞う。貞奴は手箱の中から、自分の肖像の入ったメダルを取り出し、それを片身として桃介に手渡し、その清らかな娘にこれをあげると懇願する。そのとき不思議なことに、彼女の顔に明るさが甦り、気分が良くなって、苦しみの痙攣もなく、もう一度生きられるかも知れないというが、これが薄幸の貞奴の最後の言葉で、桃介は彼女の名を呼んで泣き崩れ、福澤諭吉、河村菊枝、医者3人は泣きながら神に祈る。幕。《このあらすじは、モバイル音楽事典の「椿姫」のあらすじを、佐々木修が「貞奴姫」として改編しています。》



貞奴(12歳)

三井越後屋(江戸末期)

桃介

川上貞奴(戸籍名:小山貞)は1871年(明治4)日本橋の両替商越後屋の12番目の子供として、港区芝大神宮の近くで誕生します。越後屋は現在の三井銀行、三越百貨店につながる豪商でしたが、明治に入り新政府により新たに貨幣制度が作られ、金融の機能が両替商から銀行に移っていくことにより家業が傾きます。このような大きな変革の時代、貞は7歳で自らの意思で芸者を志し、芳町(現在の人形町)の芸妓置屋「浜田屋」の養女となります。明治5年には学制が発せられ、近所の有馬小学校や久松小学校に通うこともできましたが、貞奴は浜田屋での芸の修行を選びます。舞踊と鳴り物(太鼓・鼓)を習熟し、さらに新聞や本も熱心に読んで、場の盛り上げ方、受け答え、あるいは座を引っ張る力量を身に付けました。12歳のときに伝統ある「奴」名をもらい「貞奴」を襲名、小奴としてお座敷に上がります。上の写真は最も若い貞奴の写真です。その貞奴と桃介の運命の出会いがありました。貞奴は1881年(明治14)から名高い馬術の名人、草刈庄五郎の元で乗馬を習います。運動神経も抜群であった貞奴はすぐに上達し、馬場で出会う著名な人にも可愛がられます。明治19年、50km以上も離れた成田山新勝寺までの遠出を決め、一人で颯爽と愛馬と共に走りました。ところが帰り道、運悪く野犬に遭遇し、馬が立往生しました。その時現れたのが岩崎桃介でした。桃介はすぐに事情を呑み込み、棒切れを持ち、必死で野犬を追い払ってくれました。桃介は「岩崎と言います。慶応の学生で寮生活です」と言っただけで立ち去りました。貞奴は桃介に恋をしました。桃介は背も高くハンサムで、俗世間に汚されていない若者でした。そこで行動に出るのが貞奴の真骨頂です。貞奴は高価なお菓子をもって慶応の寮を訪ねます。人形町の人気の芸者が慶応の寮を訪れるのは、すぐに世間の噂になりましたが、それにひるむ貞奴ではありません。二人は逢引きを重ねます。



人形町(明治15年)

成田山新勝寺



福沢諭吉

鹿鳴館

大隈重信(中央)伊藤博文(右端)井上馨(前列左)

ところが貞奴の初恋はあっけなく終わります。慶應義塾の塾長福沢諭吉が桃介を気に入り、次女の房(ふさ)と結婚して福沢家の養子に入ることを望みます。そのご褒美が桃介のアメリカ留学でした。福沢諭吉は四男五女に恵まれ、長男の一太郎と次男の捨次郎は5年間アメリカ留学をしますが、諭吉の希望通りの成果はありませんでした。のちに「福沢は賢き父であり、また痴(おろ)かなる父」と言われたように、子育てには苦勞したようです。桃介も2年半留学しますがアメリカには馴染めず、当初留学は失敗といわれました。しかしその後ビジネスで大成功を納め、この留学経験は桃介の人生に大きく寄与しました。

1883年(明治16)貞奴が小奴としてお座敷に出た頃、鹿鳴館ができました。鹿鳴館では、政財界の要人や各国の外交官が出席して舞踏会が開かれました。明治の初期ですから、日本人女性でダンスを踊れる人はほとんどいません。そこで白羽の矢が立ったのが芸者でした。芸者はダンスの学校に通い、西洋のダンスを習得して、良家の令嬢に扮して鹿鳴館の舞踏会に出席しました。またそれとは別に、鹿鳴館には明治を代表する美人が出席しています。陸奥亮子(りょうこ)は新橋の芸者でしたが、外務大臣陸奥宗光の後妻になりワシントン社交界の華とよばれ、すべての芸者の憧れでした。鍋島榮子(ながこ)と戸田極子(きわこ)は二人とも鹿鳴館の華とよばれ、その美貌で歴史に名前を残します。1885年(明治18)11月3日明治天皇の誕生日を祝う天長節の夜会には、その年の夏、長崎で日本人女性のおカネさんと短い同棲生活を送り、小説「お菊さん」を著した、フランス人作家で海軍士官のピエール・ロティも出席しました。ロティは著書「日本の秋」の「江戸の舞踏会」でこの夜会を詳細に記しています。またこれを基に芥川龍之介は短編小説「舞踏会」を、さらに三島由紀夫は戯曲「鹿鳴館」を書きました。歴史が生まれた夜でした。



ピエール・ロティ

陸奥宗光夫人亮子

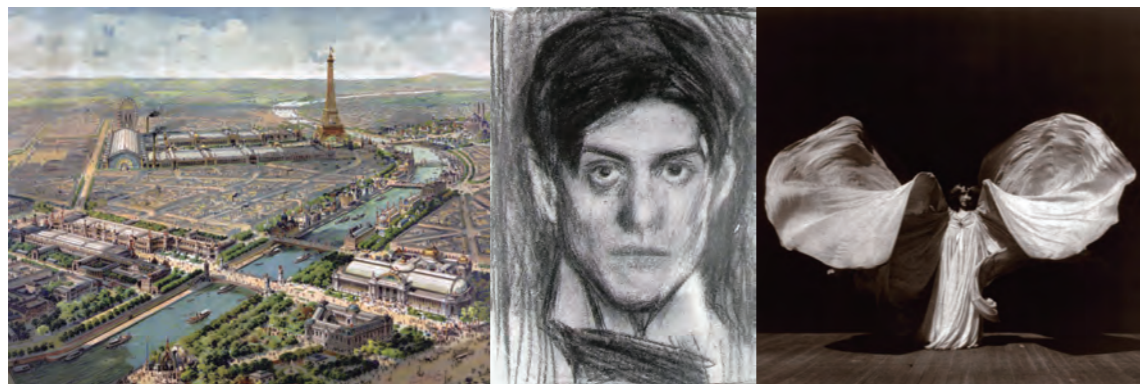
鍋島直大夫人榮子

戸田氏共夫人極子



伊藤博文 川上音二郎 川上貞奴 (1900年ニューヨークにて) 川上貞奴 (1902年ベルリンにて)

当時芸者は最員の旦那さんが付いて、かなりの金額を置屋に支払う恩に対して、大切な物(操)を差し上げる、と言う「水揚げ」がありました。そして貞奴の旦那に総理大臣の伊藤博文がなりました。その金額が一家軒分といえますから恐れ入ります。1887年(明治20)日本一の権力者をパトロンとした貞奴は、文字通り日本一の芸者になりました。同年、大日本帝国憲法草案が夏島(神奈川県横須賀市)にある伊藤の別荘で、伊藤、金子堅太郎らにより書き上げられましたが、ここに貞奴は同席していました。貞奴がどのような発言をしたかの記録は残っていませんが、歴史的な現場にいたこととなります。1891年(明治24)当時一斉を風靡していた川上音二郎の世情を風刺した舞台「オッペケペー節」を見た二十歳の貞奴は、音二郎に一目惚れします。音二郎にとって、政財界と深い繋がりがある貞奴は最高のパートナーでした。1894年(明治27)貞奴は川上音二郎と結婚します。ところが貞奴というスポンサーを見つけた音二郎は、一言で言うとハチャメチャな人間で、川上座を旗揚げしますが借金まみれになり、はたまた自由民権運動にのめり込み選挙に出馬しますが、ここでも敗北します。さらには小型のボートで海外逃亡を企てますが遭難しかかり失敗します。ところが、絶体絶命のときに現れるのが貞奴の幸運の鳥、貞奴曰く、成田山のお不動様のご加護です。1899年(明治32)アメリカ興行の誘いが入ります。川上一座はサンフランシスコに向けて旅立ちました。興行と言ってもスケジュールが決まっている訳ではなく、現地で飛び込みでの営業、つまりオーデションを受けて試演が上手くいくと、その劇場で何回かの公演ができるといったシステムでした。貞奴はマネージャーとして同行したのですが、観客が貞奴の踊りや姿に魅了され、気がつけば主演女優となっていました。日本人初の女優の誕生です。



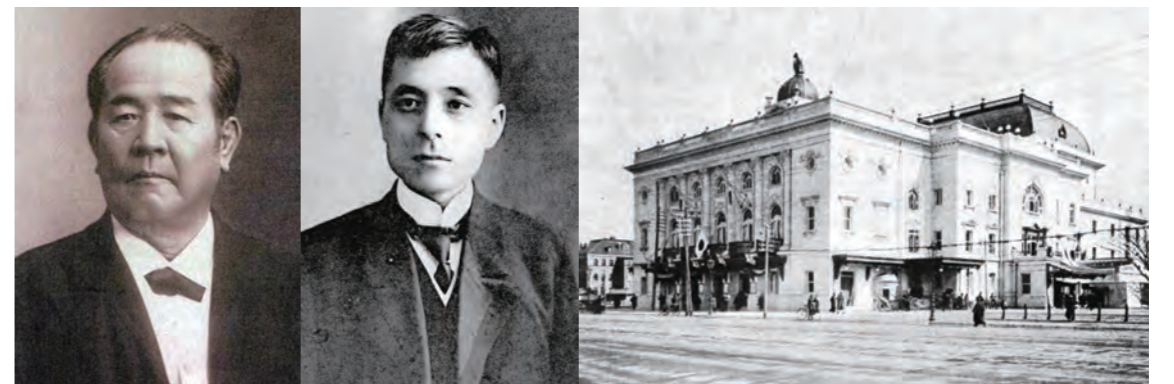
1900年パリ万国博覧会 ピカソ自画像 18歳(1900年) ロイ・フラー(1902年)



モネ ゴッホ ミューラー カッピエロ ピカソ

アメリカ大陸を1年以上巡業した川上一座は、ロンドンを経由して1900年7月遂にパリに到着しました。この年パリでは万国博覧会が開催され、世紀の変わり目が祝われました。貞奴は「パリがこんなに美しく、大きく、印象的なところだとは思いませんでした」と語っています。そのパリでは19世紀末ジャポニスムが流行していました。クロード・モネやゴッホの絵画は貞奴のパリ訪問以前に描かれています。正に機が熟したところに貞奴が現れたのです。貞奴の公演は大盛況で「パリ万博の目玉」とまで言われました。さらに貞奴のパフォーマンスは芸術家の創作の魂に火をつけました。18歳のピカソは、表紙と上記の2つの貞奴の絵を描いています。その貞奴をいち早く評価したのが、世界的なモダンダンスの踊り手ロイ・フラーでした。フラーは川上一座のマネージメントを引き受け、ヨーロッパを巡業しました。貞奴が欧米の文化に与えた影響で見逃せないことは、貞奴がコルセットに象徴される、それまでの欧米の男性が作った女の価値観を否定して、女性があるままに、自由に表現してみせたことです。この衝撃はココ・シャネルの女性服のデザインや女性解放運動にまで及んでいます。1911年(明治44)平塚らいてうが女性のため雑誌『青鞥』(せいとう)を出版して「元始女性は太陽であった」と日本の女性運動がはじまる10年以上前に、貞奴が世界の女性解放運動に火をつけていたことを、生誕150年の今日再認識したいと思います。

日本でも西洋式の劇場の建設の機運が高まり、帝国劇場の建設が決まると、貞奴はその舞台に立つべき女優の養成所設立を目指して、1907年(明治40)フランスに視察に出掛けます。翌年、渋沢栄一や福沢桃介を发起人、自らが所長として芝桜田本郷(現在の新橋)に帝国女優養成所を開所します。第一期生の志願者は100名を越し、15名が選ばれました。帝国女優養成所は翌年、帝国劇場付属技芸学校として帝国劇場に引き継がれます。



渋沢英一 福沢桃介 帝国劇場



貞奴ゆかりの地の現在。生誕地近くの芝大神宮（左上）～芝大門。実家の越後屋跡～日本銀行本店（右上）～日本橋、芸妓置屋濱田屋跡～料亭濱田屋（左下）～人形町。萬松園跡～高砂緑地（右下）1902年（明治35）欧州公演から帰国直後、貞奴と音二郎は茅ヶ崎市に「萬松園」を建てて住みます。茅ヶ崎を選んだのは九代目市川團十郎の別荘「孤松庵」の隣人になり、箔を付けるためでした。



音二郎の死後、貞奴は初恋の人、福沢桃介と名古屋に「双葉御殿」（左上）を建築して同棲します。桃介は電力王よばれば木曾川に6つの発電所を建設します。桃介と貞奴の記念碑（右上）～恵那峡（岐阜県）。貞奴は貞照寺～各務原市（左下）を建設、1946年（昭和21）12月7日肝臓癌により死去。貞奴の墓（右下）



日本橋オペラ2021

川上貞奴生誕150年・没後75年記念

歌劇「貞奴姫」／Opera "Madame Sadayacco"

貞奴物語&ヴェルディ作曲 歌劇「椿姫」名場面

イタリア語上演／ピアノ伴奏

演出／福田祥子 構成／佐々木 修

文化庁／ARTS for the future!

（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）

2021年12月10日（金）17:00開演 日本橋劇場（日本橋公会堂4F）

第1～2幕：60分（休憩：20分） 第3～4幕：65分

ご案内／桂 米助／ヨネスケ 指揮／佐々木 修 ピアノ／中橋健太郎左衛門

《配役》

福田祥子／ソプラノ／川上貞奴／ヴィオレッタ

小野弘晴／テノール／岩崎（福沢）桃介／アルフレード

香月 健／バリトン／福沢諭吉／ジェルモン

持田温子／メゾソプラノ／帝国女優養成所第一期生 河村菊枝／アンニーナ

森井美貴／ソプラノ／陸奥宗光夫人 亮子／フローラ

飯沼友規／テノール／渋沢栄一子爵／ガストーネ

飯塚 学／バリトン／鍋島直大侯爵／ドビニー

奥村泰憲／バリトン／伊藤博文公爵／ドウフォール

矢田部一弘／バリトン／皇室侍医／グランヴィル医師

町村 彰／テノール／川上音二郎／合唱

吉田 覚／テノール／ピエール・ロティ／合唱

櫻井 航／バリトン／岩倉具視公爵／合唱

高橋千夏／ソプラノ／渋沢栄一夫人 兼子／合唱

小宅慶子／ソプラノ／福沢諭吉次女～桃介夫人 房／合唱

渡谷真衣／メゾソプラノ／岩倉具視令嬢～戸田極子／合唱

窪 瑤子／メゾソプラノ／伊藤博文夫人 梅子／合唱

石井揚子／メゾソプラノ／鍋島直大夫人 榮子／合唱

布目紗綾／バレエ／川上貞奴 細野 生／バレエ／川上音二郎

舞台監督／菅野 将 衣裳／てっしー ヘアメイク／エイミー前田

稽古ピアノ／鈴木架哉子、松岡なぎさ 照明・舞台／（株）フルスペック

全席自由席 4,000円

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、50%の入場制限で上演いたします。

主催：日本橋オペラ研究会（中央区社会教育団体）

日本橋オペラ後援会

後援企業（2021年12月1日現在）



医療法人
小池医院

医療法人
太田クリニック

MAESTRO Inc.
株式会社マエストロ
Internet - Mobile - Music

（他匿名企業3社）